

「学生の就職・採用活動時期の変更に関する担当者説明会」

「学生の就職支援について」

平成25年12月19日

文部科学省

高等教育局 学生・留学生課

渡辺 正実

1. 就職支援の概要・データ

【学生・生徒の就職状況について】

平成20年9月のリーマンショック直後は、学生・生徒の就職状況が悪化。
近年は、内定率が上昇傾向にあるが、リーマンショック以前の水準にはまだ回復していない。
(大学(学部)については、平成23年3月卒業者の就職率が調査開始以降過去最低を記録)

〈平成25年度卒の就職内定状況(大学等10月1日現在、高校9月末現在)〉

- | | | |
|-----------------------------|---------|-------------------------|
| ■ 大学(学部):64.3%(昨年比1.2ポイント増) | } 3年連続増 | ■ 高校:45.6%(昨年比4.6ポイント増) |
| ■ 専門学校 :43.4%(昨年比0.8ポイント増) | | |

【これまでの就職支援の取組】

- **就職相談員の配置を支援**し、学生の能力・適性に応じたきめ細やかな就職相談を行うなど、**大学等における就職支援体制を強化**(平成21年～23年度)
⇒ **ほぼ全ての大学等に就職支援に関する学内組織が設置**
 - 平成22年度より文科省・厚労省・経産省が密接に連携し卒業前の1月より集中支援を実施
⇒ **今後も引き続き関係省庁間での連携した取組が重要**
- 〔実績(平成25年1月～3月末・速報値) 就職件数:40,651件(うち大学生17,431人)
引き続き、卒業までに就職が決まらなかった学生・生徒についても「未就職卒業生への集中支援」を実施。〕

【就職支援における課題】

- 就職活動が、大学等の授業・試験期間と重複 ⇒ 学生の成長が最も期待される3年次の教育に支障。
- 海外留学をする日本人学生が減少 ⇒ 就職活動が阻害要因の一つとして挙げられている。

大学等では、**学生の学修時間の確保、留学等の多様な経験を行う機会の確保**、といった環境の整備が課題



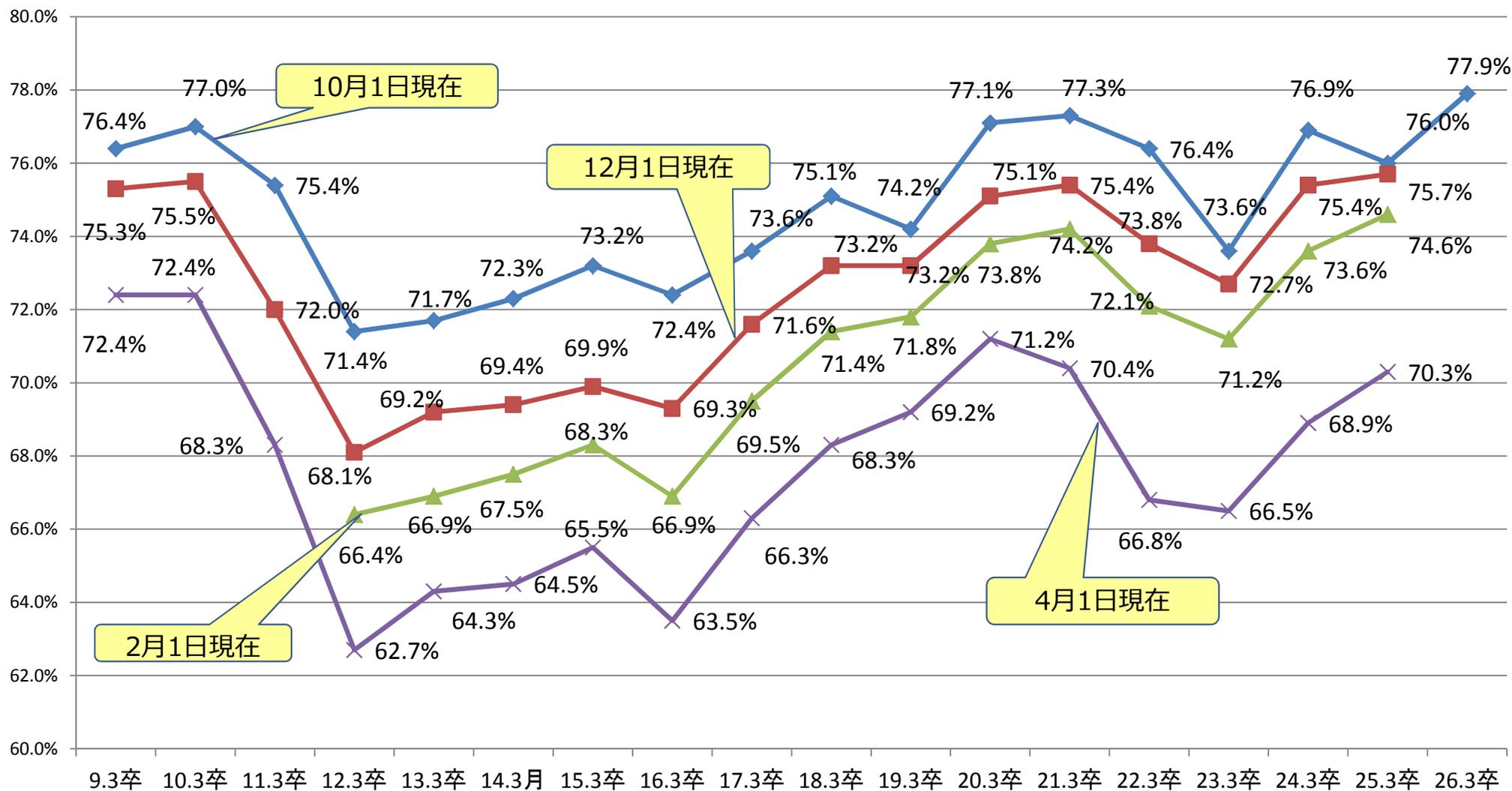
★【大学等の責務】

・大学改革の着実な実行。初年次からのキャリア教育・職業教育の充実など社会の求める人材の育成。

★【経済界の協力】

・学生が就職活動に費やす時間の短縮。留学経験や大学の成績の適切な評価。インターンシップへの積極的な協力。

新規大学卒業者の就職希望率の推移

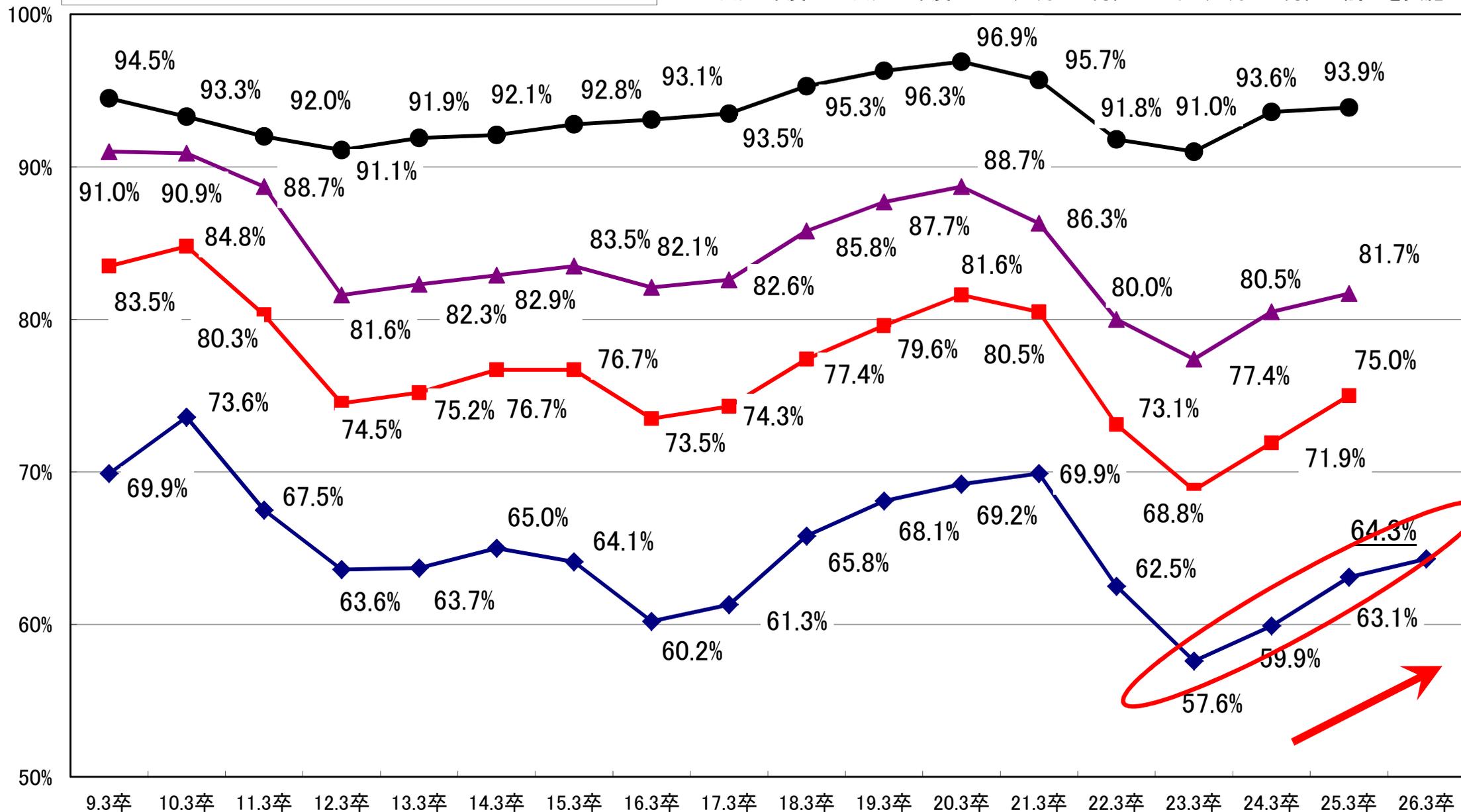


(資料出所)「大学等卒業予定者就職内定状況調査」(厚生労働省・文部科学省)

(注)就職希望率は、卒業予定者数に占める就職希望者の割合。

大学の就職（内定）率の推移

※平成8年度から平成10年度までは、2月1日現在ではなく、3月1日現在の調査を実施



※昨今「就職率」という定義が国や大学等で統一されていない状況が存在。
 今後、文部科学省としては、「就職希望者に占める就職者の割合」を「就職率」と統一。

2. 就職支援における課題 (就職採用活動時期の変更)

学生を取り巻く現状①

現在の就職活動は3年次から開始

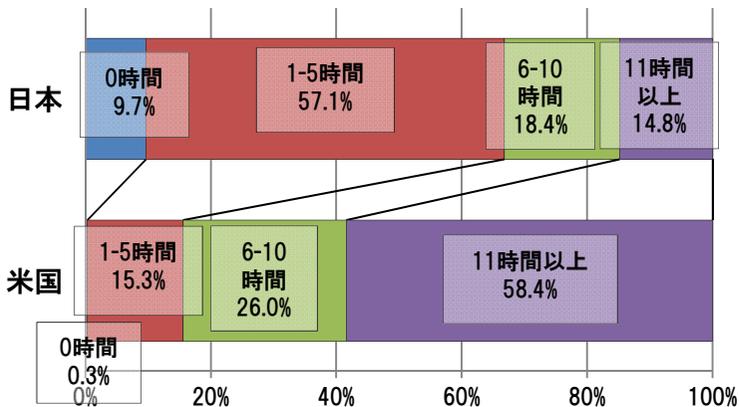
- 倫理憲章の改訂(H23.3)により広報活動開始が3年次10月から12月となったものの、依然として、**大学の授業・試験期間と重複**。
- 学生の成長が最も期待される**3年次の教育に支障**。
- 学生は、**3年次後期の留学をあきらめざるを得ない状況**。



学修時間が少なく、大学教育に支障。また、留学の減少等、グローバル化への対応が停滞

学生の学修時間は少ない

- 日本の学生の**学修時間は、米国と比較しても少ない**。

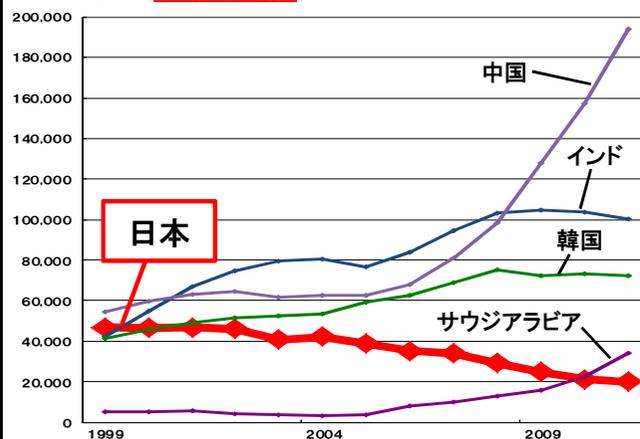


◆授業に関連する学修の時間(1週間当たり)日米の大学の一年生の比較

出典:東京大学 大学経営政策研究センター(CRUMP)『全国大学生調査』2007年、サンプル数44,905人 <http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/>
NSSE(The National Survey of Student Engagement)

日本人留学生は減少

- 中国、韓国をはじめ、**アジア諸国の米国留学は増加**。
- 一方で、**日本は減少**。



◆アジア諸国から米国への留学生数の推移

出典:IEE「Open Doors Data:International Students Leading Places of Origin」

日本の大学は世界と比べて劣位

- 日本の大学は、**トップ100に2校のみ**。
- 中国**のトップ100入りは**2校**、**韓国**は**3校**。

1. カリフォルニア工科大学(米)
2. スタンフォード大学(米)
3. オックスフォード大学(英)
4. ハーバード大学(米)
- ...

27. 東京大学
46. 北京大学(中国)
50. 浦項工科大学(韓国)
52. 清華大学(中国)
54. 京都大学
59. ソウル国立大学(韓国)
68. 韓国科学技術院(韓国)

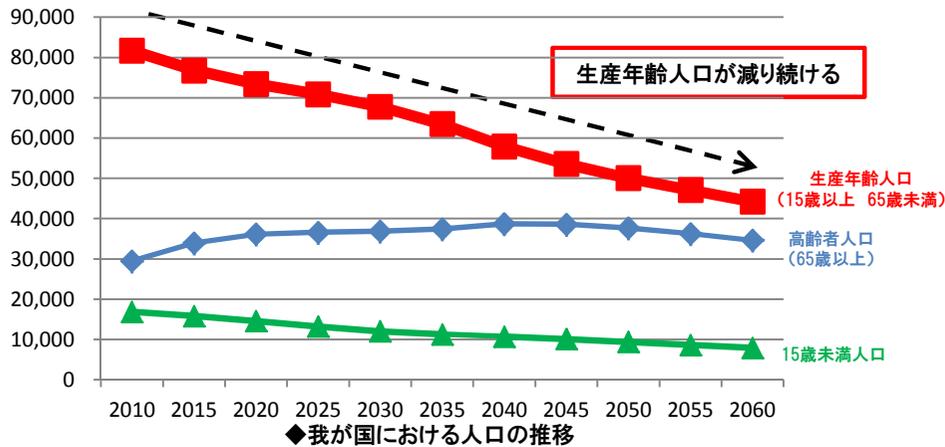
◆Times Higher Education「World University Rankings」(2012-13年度のランキング)

学生を取り巻く現状②

経済の落込みが加速

生産年齢人口の減少

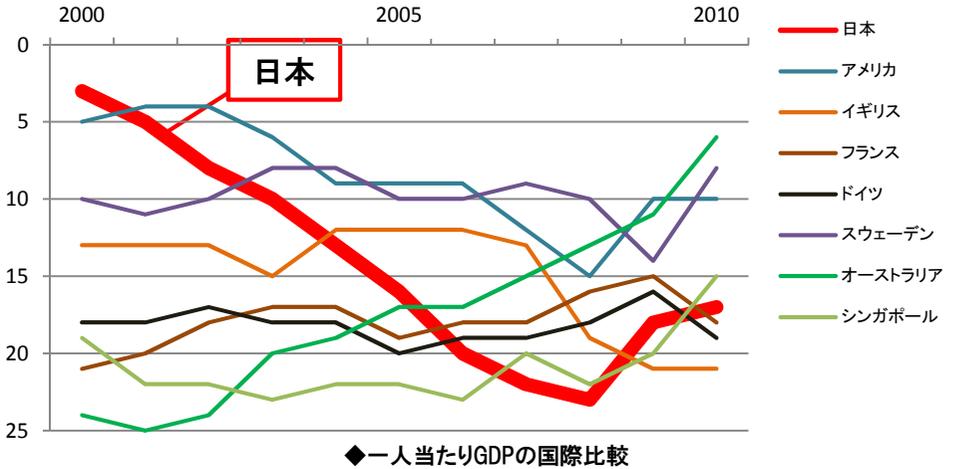
○少子高齢化の急激な進行により、**生産年齢人口は減少**。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)より作成

一人当たりGDPの激減

○一人当たりGDPは**2000年の3位から大きく後退**。



出典：IMF「World Economic Outlook Databases」(2012年10月版)より作成

学生一人一人の能力を高め、経済活動に参画してもらうことが喫緊の課題

大学の責務

- 社会の求める人材の育成
 - **大学改革**の着実な実行
 - 初年次からの**キャリア教育・職業教育**の充実

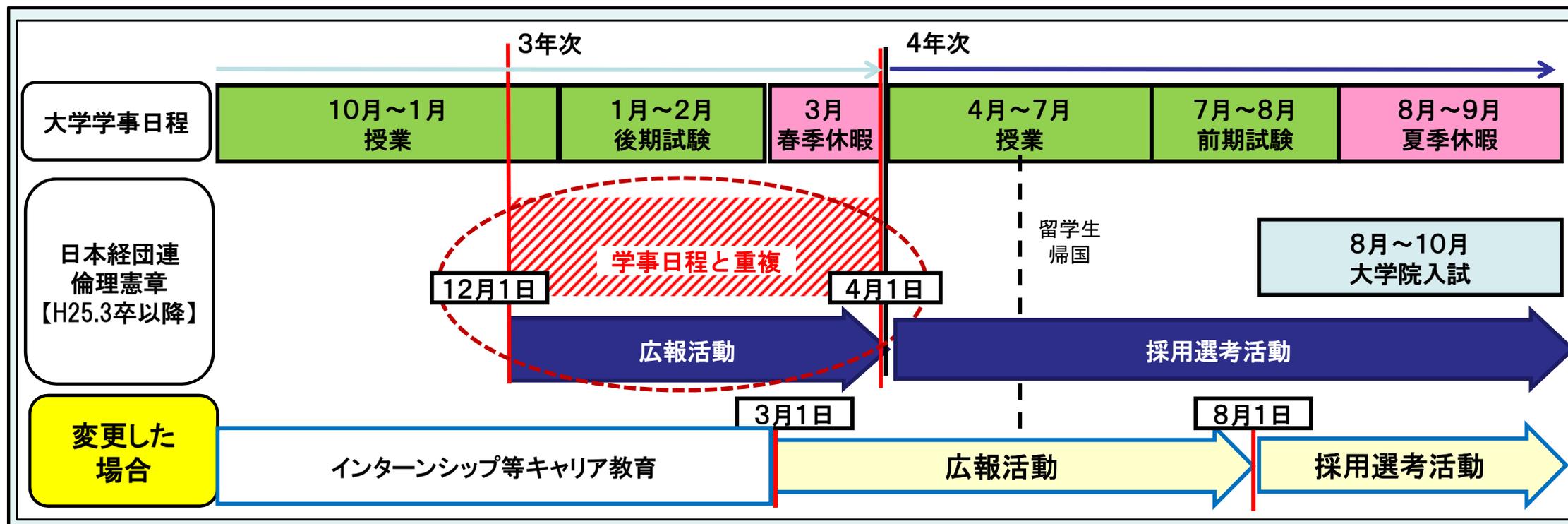
経済界の協力

- 学生が**就職活動に費やす時間の短期化**
- 留学経験や大学の成績を適切に評価
- インターンシップへの積極的な協力

学生の就職・採用活動時期の変更について

これらをふまえ、就職活動の時期を変更
あわせて、政府・経済界・教育界が一体となって以下の課題に取り組むこととする

- ① 大学においても社会の求める人材を育成するための取組を強力に推進。
- ② 中小企業の魅力発信を強化するなど一層の対策を実施。
- ③ ミスマッチ解消のため、インターンシップに参加する大学生の数の目標設定を行った上で、早期のインターンシップ・キャリア形成支援などを実施。



グローバル人材育成コミュニティの形成に向けて

現状・課題

●海外拠点を持つ企業の7割以上※にとって、グローバル化を推進する国内人材の確保・育成は大きな課題

(※ 出典：経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月))

●諸外国が海外留学生数を伸ばす中、日本人の海外留学生数は2004年以降減少傾向 2004年から2010年で24,885人減少(約▲30%)

目標

	日本人留学生倍増	
	2010	2020
大学生等	6万人	→ 12万人
高校生	3万人	→ 6万人

目指すべき姿

●質の高い海外経験とグローバルな人的ネットワークを有する多くの人材が、大学等を卒業後に様々な分野で活躍

●国連等の国際機関の中核で活躍する日本人の増加により、世界的な我が国のプレゼンス・影響力が向上

国、民間、大学が一丸となって我が国のグローバル人材を育成

- 国、連携企業、大学等が協働で選考・研修等を実施
- 留学だけでなく、インターンシップ等も連動する新たな取り組み
- SNSによる本事業参加学生等のコミュニティを創設し、国、連携企業、大学等がそれを活用

学生等の成長プロセス

留学目的の明確化

- ・選抜による意欲の喚起
- ・留学目的が明確になることにより、将来の具体的キャリアプランを描く

質の高い留学

- ・明確な目的を持った優秀な学生が質の高い留学プログラムに参加し、大きな成果を得る
- ・支援メニューに応じ、留学後に活かせる多様な経験を積む

留学成果の定着等

- ・留学経験者が意見交換を行う交流会や、成果発表会等を通じ、留学の成果を真に身に付ける
- ・インターンシップや企業説明会等に参加し、企業理解を促進することにより、就職に向けた雇用のミスマッチを防止

選 抜

成績優秀者だけでなく、高い意志と強い意欲がある学生等を選抜

- 成績要件の設定
- 明確な留学計画、指導教員等による推薦状、面接による選考

事前研修

行っただけに終わらない留学目的の明確化

- 留学希望学生等を対象に、例えばグローバル事業の現状や企業が直面している課題などをテーマに企業若手社員によるワークショップ等を実施。これによる留学目的の明確化と意欲向上をねらう

留学時の奨学金支給

国費と民間資金のマッチング等による、学生等への奨学金支給及びステータスの付与

【国による支援】

平成26年度概算要求額 1 5 3 億円

- 大学生等：10,200人 → 32,500人
- 高校生：300人 → 3,600人
- ・奨学金による支援
- ・留学プログラムの評価 等

事後研修等

留学を真に血肉とするために欠かせないフォローアップを実施

- 個々人の内省を促す仕組みや、経験者同士で意見交換等の交流会を実施
- 留学修了者によるSNSコミュニティを創設し留学目的の実現に向けた取組の継続など

インターンシップ・企業説明会等

留学修了者を対象としたインターンシップ、企業説明会等の実施

- 連携企業が実施する長期インターンシップへの参加
- 連携企業に限定した企業説明会等の開催

連携企業の役割等

企業ニーズに沿った優秀な学生等を選抜するため(希望に応じ)選考への参加

若手社員を講師として派遣。社内の若手社員研修として活用することで研鑽の場にも

民間資金を活用した支援メニューの提供

支援メニュー(案)

- グローバル企業で活躍したいトップ層の学生等を支援する奨学金
- 地域のグローバル化に貢献する企業で活躍したい学生等を支援する奨学金
- 18歳頃の早期の留学を支援する奨学金

若手社員を講師として派遣。社内の若手社員研修として活用することで研鑽の場にも

- ・優秀な学生等の発掘
- ・学生等の企業理解増進による雇用のミスマッチの防止

グローバル人材となって実社会へ！

(参考) 就職支援の取組

就職相談員(キャリアカウンセラー等)の配置(平成21～23年度)

1. 趣旨

- 大学生等の就職環境が厳しいことから、平成21年度より「大学教育・学生支援推進事業」において、就職相談員(キャリアカウンセラー等)を配置し学生の能力・適性に応じたきめ細やかな就職相談を行うなど大学等における就職支援体制を強化。

2. キャリアカウンセラーの業務

- ① 就職相談(カウンセリング)
- ② 就職先の企業開拓、情報収集・分析
- ③ 企業と連携した就職セミナーの企画・開催
- ④ 履歴書等エントリーシートの添削 など

3. 具体の取組例

立教大学 (東京都)

NPOや人材派遣会社で若年者に対する就職支援を行っていた者をキャリアカウンセラーとして採用し、4年生を対象に電話により活動状況を確認。個々の状況に応じて積極的に就職担当部署に来訪するよう働きかけ、就職担当部署が把握している求人情報とのマッチングを図った。

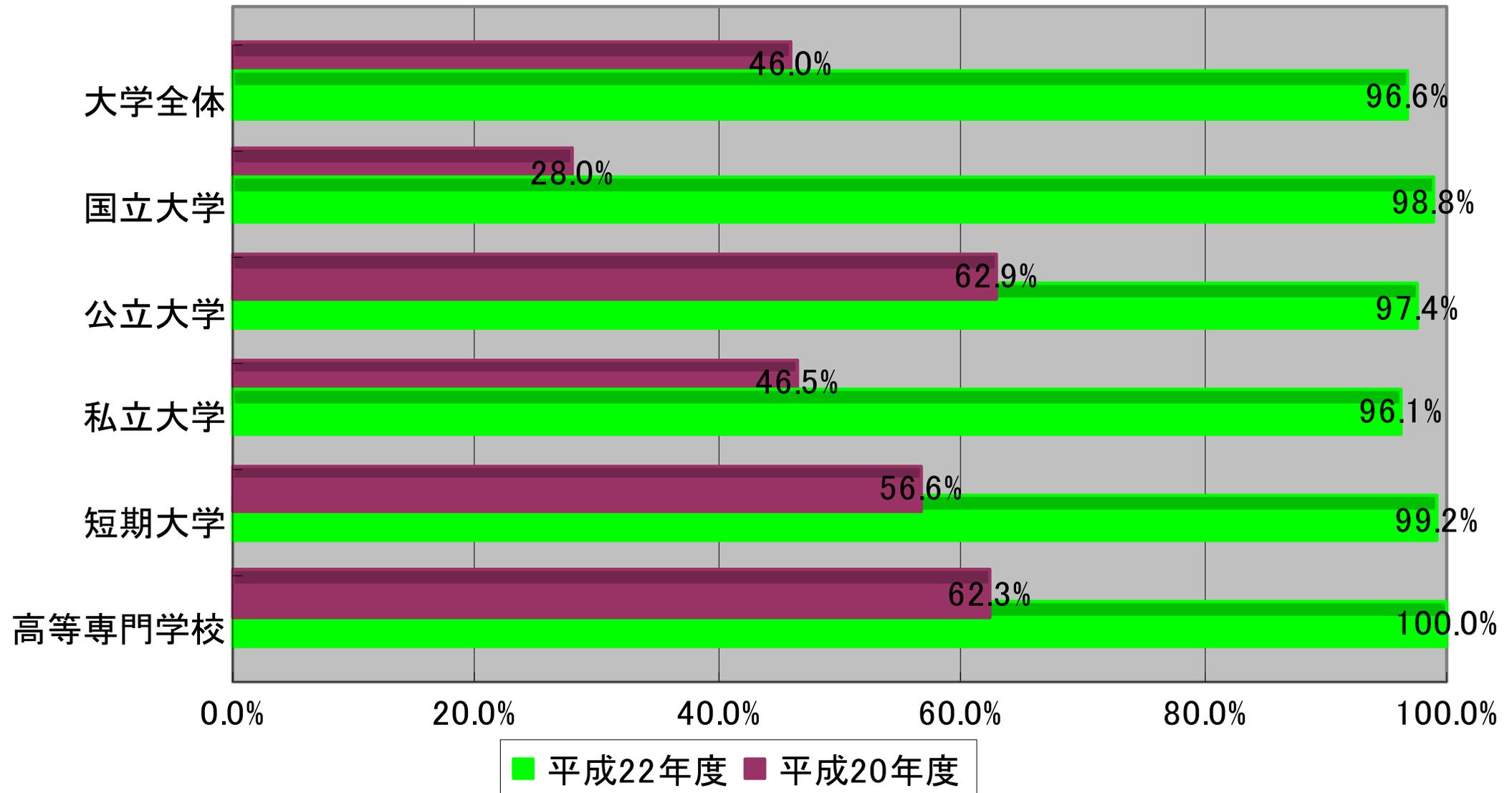
関西国際大学 (大阪府)

企業出身者(再就職を斡旋する企業)をキャリアカウンセラーとして採用し、就職サイトに掲載されていない中小企業の求人を開拓し、学生との面談を通じて、可能な限り学生の希望に沿った就職先を紹介。

また、学生が抱えている就職活動や社会人になってからの不安や疑問を解消するため、多様な業界の卒業生から現状の仕事の内容について説明する場を設けるなど学生の不安の解消と卒業生とのつながりを構築。

就職支援に関する学内組織の設置状況

平成22年度に就職支援センターなどの学内組織を設置している大学は全体の96.6%まで増加。





未内定就活生への集中支援2013の取組状況

新卒者の就職環境が依然として厳しいことを踏まえ、文部科学省、厚生労働省、経済産業省は、未内定の学生・生徒が1人でも多く卒業までに就職できるよう、1月18日から3月末までを集中支援期間とし、「未内定就活生への集中支援2013」を実施しました。

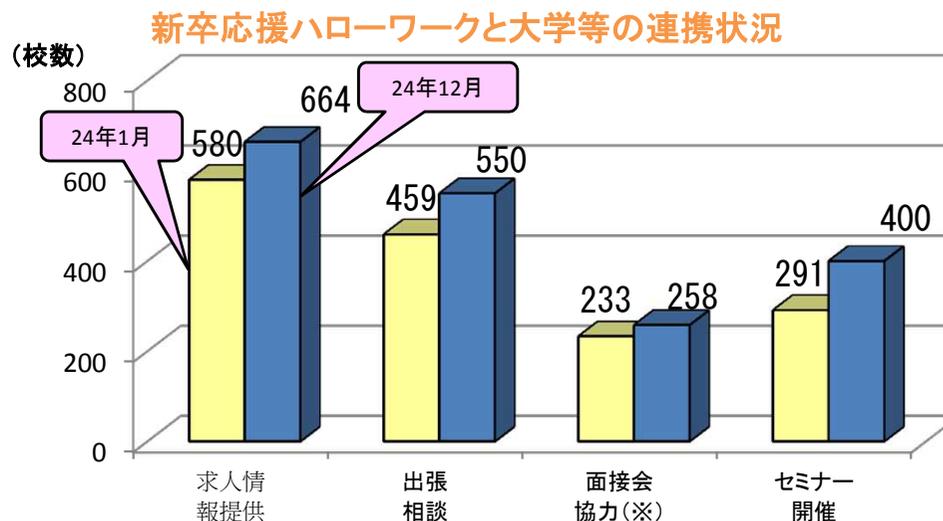
【実績】就職者数：**約4.1万人**（前年度約3.9万人）

※就職希望者数のうち未就職卒業者数：約4.2万人（前年度約4.8万人）

未内定の学生・生徒に「就職をあきらめさせない」ためのジョブサポーターや大学の就職相談員等の連携による個別支援の徹底（文科・厚労*）

【実績（1月～3月末・速報値）】相談件数 のべ185,753件、**就職者数 40,651人**（昨年同期比4.3%増）

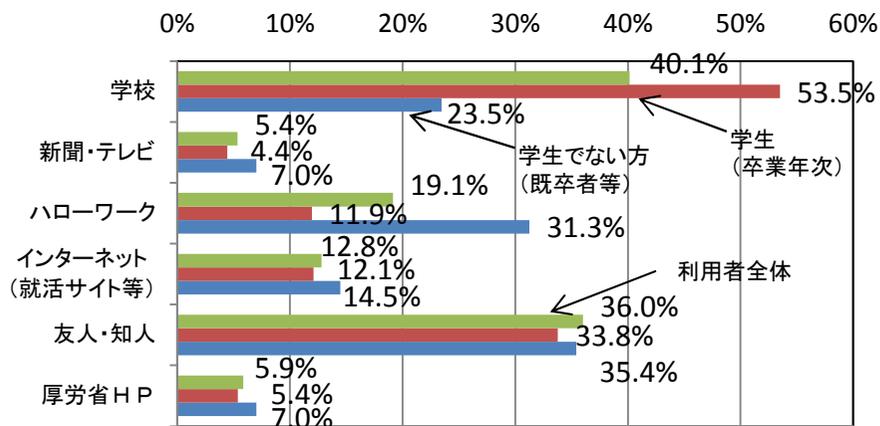
大学等から未内定者に新卒応援ハローワークを積極的に周知。大学生の利用者のうち**約54%**が大学等からの送り込みにより、新卒応援ハローワークに来所。新卒応援ハローワークの利用者も急増。1月～3月の、のべ利用者数（現役学生）は**120,554人**（前年同期比3.5%増）。



出所：職業安定局業務統計「大学との連携状況」（24年12月）

（※）大学が開催する面接会等へのジョブサポーターの派遣、参加企業のあっせんなど

新卒応援ハローワークを知ったきっかけ



出所：職業安定業務統計「新卒応援ハローワーク利用者アンケート調べ」（25年2月）

新卒応援ハローワークと大学との連携が進み、平成24年12月末時点で**711大学***（平成24年1月現在では632）が新卒応援ハローワークと連携し、学生の就職支援をしている。

※1大学に複数の校舎があり、それぞれ別の新卒応援ハローワークと連携している場合は、別の大学としてカウント。

中堅・中小企業中心の就職面接会の開催（厚労＊・経産）

未内定の学生・生徒のために、中堅・中小企業を中心とした就職面接会

【実績（1月～3月末・速報値）】 大学生向け 170回 / 高校生向け 96回

（開催例）

「平成24年度第4回新規大卒者等合同就職面接会」

開催日：平成25年2月12日 主催：東京新卒応援ハローワーク

参加企業数：190社 求人数：2,232人 参加学生数：1,051人

地域の大学等との連携による中小企業と大学生等とのマッチング等の実施 （地域中小企業の人材確保・定着支援事業）（経産＊・文科・厚労）

地域の中小企業・小規模事業者が一体となって大学、ハローワーク等と連携し、大学等との顔の見える関係作りから中小企業と大学生等とのマッチング、人材育成・定着までを一体的に実施。

【実績（平成25年1月～2月末）】

未内定就活生を対象とした合同就職説明会の開催：25回（約7,600人の学生・既卒者が参加）

保護者を通じた未内定の学生・生徒への就職支援の周知（文科・厚労＊）

学校と連携し、未内定の学生・生徒を持つ保護者に啓発文書を送付し、就職の現状に対する理解を求めるとともに、学生・生徒に対して新卒応援ハローワークや最寄りのハローワークでの就職支援についての周知等を実施。

【実績（平成25年1月18日～平成25年3月31日）】

保護者への相談件数：9,884件、保護者対象セミナー：53回（1,850人）

啓発文書の送付：53,368通（うち、学校を通じた送付31,287通）

臨床心理士による未内定の学生・生徒の心理的ケアの実施（厚労）

就職活動の長期化等により心理的ケアが必要な未内定の学生・生徒に対して、定期的に配置する臨床心理士による心理的ケアを実施。
【実績（平成25年1月～平成25年3月31日）】

相談件数：1,566件

民間就職情報サイトによるジョブサポーター・新卒応援ハローワーク等の周知（厚労）

主要な民間就職情報サイトに対し、ジョブサポーターや新卒応援ハローワーク等の支援の周知のためのバナー掲載について協力を要請し、協力を得て、未内定の学生への周知を徹底しました。

（期間中に協力いただいた就職情報サイト（運営会社名五十音順））

- | | |
|--|--------------------------|
| ○「就活ラボ2013」： https://www.ac-lab.jp/2013/ | （運営）株式会社アクセスヒューマネクスト |
| ○「[en]学生の就職情報2013」： http://enjapan2013.com/ | （運営）エン・ジャパン株式会社 |
| ○「学情ナビ2013」： http://www.gakujo.ne.jp/2013/ | （運営）株式会社学情 |
| ○「Re就活」： http://re-katsu.jp/ | （運営）株式会社学情 |
| ○「就職ウォーカーNet2013」： http://2013.s-walker.net/ | （運営）株式会社ジェイ・ブロード |
| ○「就職ウォーカーNet2014」： http://2014.s-walker.net/ | （運営）株式会社ジェイ・ブロード |
| ○「就活ナビ2013」： https://navi13.shukatsu.jp/13/ | （運営）株式会社ダイヤモンド・ビックアンドリード |
| ○「日経就職ナビ2013」： https://job.nikkei.co.jp/2013/top/ | （運営）株式会社日経HR、株式会社ディスコ |
| ○「ブンナビ！2013」： http://bunnabi.jp/2013/index.php | （運営）株式会社文化放送キャリアパートナーズ |
| ○「マイナビ2013」： http://job13.mynavi.jp/2013/ | （運営）株式会社マイナビ |
| ○「リクナビ2013」： http://job.rikunabi.com/2013/ | （運営）株式会社リクルートキャリア |

政府広報によるジョブサポーター・新卒応援ハローワークの周知（厚労）

政府広報を活用し、平成25年1月から各種新聞・雑誌への広告掲載及びホームページ検索サイトへの連動広告の掲載、ラジオ番組内でのインフォメーションのほか、政府広報オンラインに特設ページを開設する等、ジョブサポーターによる支援や新卒応援ハローワークについて未内定の学生やその保護者等への周知を徹底しました。

【政府公報】政府公報オンライン特集ページ <http://www.gov-online.go.jp/tokusyu/201301/index.html>

※ 複数の省が連携して実施している支援メニューについての問い合わせ先は、*印の省へお願いします。

平成24年度におけるジョブサポーター支援対象就職決定者数

- ◇ 年度前半は未就職卒業者が多く、年度後半は現役の未内定学生が増加する傾向となっています。
- ◇ ジョブサポーターの新卒者（大学4年生等）に対する支援は、主に卒業が間近に迫った年度後半を中心に実施しており、大学と連携することにより、年度末までに未内定の学生を新卒応援ハローワークに登録し、学生に対し切れ目のない支援を提供しています。

【実績】

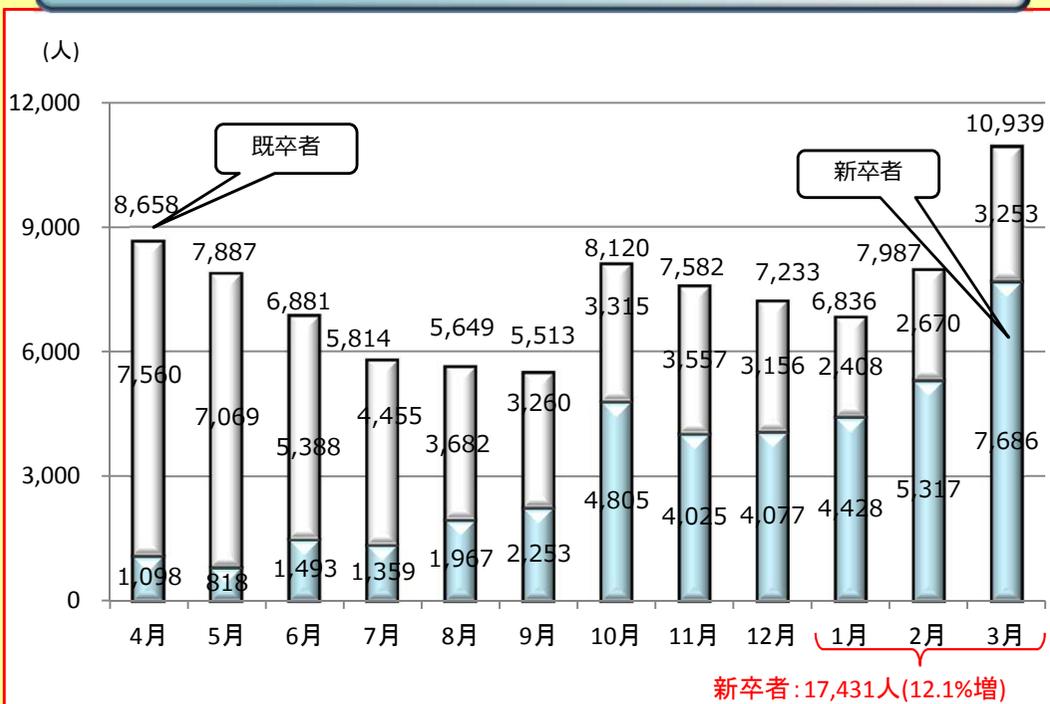
◇平成25年3月卒業者の平成25年1月～3月末の間の就職決定件数**40,651人**（うち、**大学生17,431人**）。

※平成24年1月～3月末はそれぞれ、38,971人（うち、大学生15,543人）。

◇大学生の就職決定件数（平成24年度計）は**89,099人**（前年度比**25.8%増**）、うち新卒者は**39,326人**（前年度比**33.5%増**）、既卒者は**49,773人**（前年度比**20.4%増**）となった。

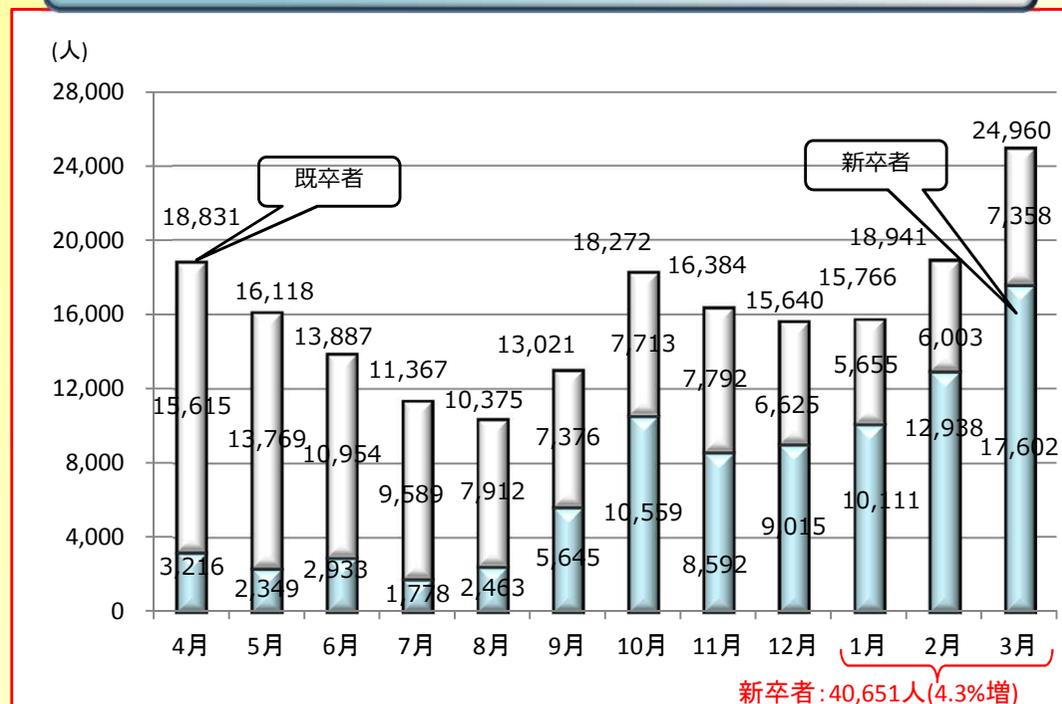
◇学歴計の就職決定件数（平成24年度計）は**193,562人**（前年度比**18.7%増**）、うち新卒者は**87,201人**（前年度比**20.6%増**）、既卒者は**106,361人**（前年度比**17.1%増**）となった。

大学生就職決定件数（新卒・既卒）



(出所)職業安定業務統計

就職決定件数（新卒・既卒/学歴計）





未就職卒業生への集中支援2013

- ◇ 厚生労働省、文部科学省及び経済産業省は、1人でも多くの新卒者が卒業までに就職できるよう、1月18日から3月末まで「未内定就活生への集中支援2013」に取り組み、1月から3月末までにジョブサポーターの支援によって、約4万1千人が就職しました。
- ◇ 卒業までに就職が決まらなかった場合であっても1日でも早く就職できるよう、引き続き、6月末までを集中支援期間とし、「未就職卒業生への集中支援2013」に取り組み、**卒業後もジョブサポーターによる個別支援を継続し、就職が決まるまで全力で支援を行っています。**

新卒応援ハローワーク等で卒業後も継続して就職活動を全力で支援します！

新卒応援ハローワーク等においては、卒業後もジョブサポーターによる個別支援を引き続き継続するとともに、1日でも早く就職できるよう、全力で支援を行います。

ジョブサポーターによる個別支援

大学等とジョブサポーターとの情報共有による支援（大学等の協力により把握した未内定者への電話による来所勧奨や求人情報の送付など）を継続するとともに、就職活動についてのアドバイスや希望に沿った求人情報の提供などの個別支援を徹底し、1日でも早い就職を目指します。

新卒応援ハローワークの所在地・連絡先：<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/dl/5a.pdf>

就職面接会の開催

中小・中堅企業を中心に就職面接会を追加開催、企業との出会いの機会を増やします。若年者のためのワンストップサービスセンター（通称：ジョブカフェ）においても未内定卒業生等向けにカウンセリング等を実施します。

就職面接会の開催スケジュール：<http://job.gakusei.go.jp/service/231030.do?action=initDisp&screenId=231030>

各地のジョブカフェ：http://www.meti.go.jp/policy/jobcafe/jobcafe_all.html

地域の大学等との連携による中小企業とのマッチングの実施

地域の中小企業・小規模事業者が一体となって大学、ハローワーク等と連携し、大学等との顔の見える関係作りから中小企業と学生等とのマッチング、人材育成・定着までを一体的に実施します。

地域中小企業の人材確保・定着支援事業ホームページ：<http://chiiki-jinzai.com/>

※ 上記の支援や新卒応援ハローワークについては、卒業後も利用可能です。

さらに、ニーズに応じて無料の職業訓練やインターンシップも活用し、就職を支援します。

無料の職業訓練等によるスキルアップ

求職者支援制度による職業訓練において設定される未就職卒業生向けの無料の職業訓練や企業に雇用されながら生きた技能・技術を学ぶための雇用型訓練を活用し、スキルアップを支援します。

詳しくはお近くのハローワークまでお問い合わせください（<http://www.mhlw.go.jp/kouseiroudoushou/shozaiannai/roudoukyoku/>）。

中小企業・小規模事業者の事業現場でインターンシップを実施

中小企業・小規模事業者の事業現場で働く上で必要な技術・技能・ノウハウを習得する機会を提供するため、中小企業・小規模事業者で実施する職場実習（いわゆるインターンシップ）を支援します。

中小企業庁人材対策事業ホームページ：<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kovou/jinzai.htm>

～未就職のまま卒業された方に対する就職支援を継続して行います～

○ 卒業後も引き続き、新卒応援ハローワーク、ジョブサポーター等による支援を継続し、1日でも早い就職を目指します。

【未内定のまま卒業された方のうち、新卒応援ハローワーク、ジョブサポーター等の支援による就職の実績】

平成24年4月～6月：24, 663人

平成23年4月～6月：19, 815人

～ジョブサポーター等の支援による未内定卒業生の就職事例～

事例1

在学中に6社に応募し、最終選考までは残るものの内定を得られなかったAさん。既卒者を対象とした求人があることを知らなかったため、留年して新卒求人に再チャレンジすることを検討していたが、ジョブサポーターから既卒者でも応募できる求人があること、卒業後もハローワークで就職支援を受けられる旨の説明を受け、卒業したうえで就職活動を続けることとした。ジョブサポーターによる面接指導等を受け、新卒応援ハローワークが紹介した人に応募したところ、希望職種(放送業界)に就職することができた。

事例2

スポーツインストラクターを希望していたBさん。求人が少ない職種のため就職出来ないまま卒業することとなった。Bさんの個別支援を担当するジョブサポーターが、過去、ハローワークに提出された求人から希望職種の求人を提出したところのある事業所を探し出し、個別求人開拓を実施したところ、大卒等求人を提出してもらえこととなった。Bさんが不安に感じていた履歴書の作成指導を重点的に行う等の対策を講じたうえで、求人に応募した結果、書類選考を突破。面接を経て就職に至った。

事例3

地元(実家)から離れた地域の大学に進学し、当該地域での就職を目指してしていたCさん。未内定のまま卒業し、地元に戻って就職活動を継続することとなった。地元の新卒応援ハローワークのジョブサポーターがそれまでの就職活動の状況を聞き取ったところ、学生時代を過ごした地域での就職に固執し、応募する求人(企業)に一貫性がないことが判明。相談の中で本来の希望職種、希望就業地等を再認識させたうえで他地域への人事異動もある地元企業の求人を紹介したところ採用されることとなった。

事例4

大学在学中は公務員を目指していたDさん。試験に合格することができず、卒業後、民間企業への就職に変更し、ハローワークに来所。Dさんは非常に真面目で実直な性格であったが、限られた時間で自分をPRすることが苦手であり、書類選考に通過するものの最終面接が突破できない状態が続いた。ジョブサポーターが某中小企業を訪問した際に「新しい人材を採用したいが、なかなか大学生の応募がない」という事業主の話聞き、Dさんの人柄や長所を説明したうえで、面接してくれるよう依頼。実施された採用面接においては、Dさんの話をじっくり聞く時間が設けられ、結果として営業職として採用となった。